令和8年(2026)2月12日発行　第175号

こびとのおうちえんLetter

お正月の帰省時、母が今度小学1年生に手あそびを教えるから練習したい、と言い、一緒に「茶つみ」をやってたら、2番もちがう手の合わせ方でやる方法があると知った。そこで、おうちえんの3学期がはじまってすぐに(ゆき)に伝授したら、またたくまに女の子たちに流行。みなぎも小さいときにやっていた「みかんの花が咲く丘」をみんなに教えて「せっせっせーの よいよいよい」で次々、習得。最初はのらなかった男の子たちもだんだん参加するようになり(まえひと)は新しくこんなのもできるよ！とグー手チョキパーでやる茶つみをあみだしたりしてどんどん発展。おもしろいねー！

1月は、てらこやの子たちと大勢でけんどうをすることも増えてにぎやかな景色。こんなに体格差や力量の差があっても、お互いに楽しくできるというのが、とても興味深く、奥深い。各々の成長を促しているのは、まちがいなく、遠慮しすぎず、本気でやるからこその学びがそこにある。

2/9、かほが6歳になった。ほんとに大きくなった。「次は、さゆとオレのたんじょうびやね」けいごが言って、ああ、次は、もういないんだな、と実感する。

今7人の年長さんを見ながら、ああ、なんともたくましいと感じ、5人の年中さんを見ながら、本来のほがらかさや、ほどけてゆるんで自分を出している今をうれしく思っている。ちまたでいう強さや賢かさとはちがうそれを日々感じている。

おうちえんの子たちに対して、できることは自分でやるということ（自分の気もちをそのまま表現することも）を大切にしている。手をすぐには出さないように心がけている。今まで何でもやってもらっていた子は、最初は自分でやろうとしないし、やってもらえるのを待っているし、やってほしいということが言えない。くり返し、自分でやってみよう！と促したり、一緒にやったり、伝えたり、気もちを聴いたりするうち、自分のことをがんばってやろうとか自分から伝えよう、というふうになる。最終的には、手伝ってあげる側になったり、ちょうどいいサポートをするようになる。

例えば、おでかけの時、シートベルトのできない子はたすけてほしいと言うようになるし、一緒にやることを喜びとして動いている上の子たちがいる。そして、「うしろは準備OK！」と気もちいい声が返ってくる。何気ないようなことだけど感動を覚えたシーンだった。例えば、玄関の靴が散らかしてるときは、靴をそろえる子がいたりする。中には、ほめられたくてやっている子もいる。（ほめられたい子は自分を見てほしくて認めてほしくて何かができる自分でないと不安という側面もある。）私たちは、ほめない。（ほめられることが目的となるのは悲しい。）それをしてくれて「たすかった！」という気持ちや、それをすると「気もちいいね！」ということを伝える。

やっちゃろうかじゃなく、それをやるのが自然。ほめられようとかいい子でいようとか、そういうのじゃなくて、こうしたら助かるとか気もちいいとか、人に貢献することへの喜びを体感してゆく。喜ばせることが目的になっておらず（相手が喜ぶことを期待して動くのではないという意味で）というのも大切なことかもしれない。そうしてお互いうれしい関係になっていく。

「おうちでは全然ちがう」のではなく、私は、おうちえんというおうちで彼らは自分を育てていると思っている。彼らのおうちでの姿だけが真の姿ではなく、ここでの姿もまた真の姿なのだ。1人でやる不安をのりこえて、決心して挑んでいる姿、人のせいにしない生き方を学ぶこと。私も謙虚に、こどもたちのように生きていかなきゃな。と思う。

「自分が一番」や「勝ち負け」や「できる できない」や「いい わるい」や「上手い 下手」「優劣」などに価値をおいていた子たちが、ほぐれて自分自身になっていく姿は、そこに表れるやさしさやおだやかさは、私たちを照らしてくれる。

こどもと関わるのは簡単ではない。そのことをちゃんと胸にとめておかなくちゃと思うし、自分に問うことをしつづけなくてはと思う。

私自身、もともと自信がなく、人の評価を気にして、一方では、わかってほしくてたまらない人間だ。それでも、そういう自分を長い時間をかけて少しずつ変化させてきていると思う。以前は「きびしい」と言われることが悲しかった。誰かが言ったことに腹を立てたり、傷ついたりすることが多かった。今は、きびしいと言われても そうだよな、と思うし、腹を立てたり、わかってもらえないと悲しんだりすることが以前より減った。引きずらなくなった。人とうまくいかない時や意見にくい違いがあるときも、意識して相手は○○なんだな。と思うようにしているし、それ以上でもそれ以下でもないなと思えるようになってきた。　まだまだ一緒に育っていこう。

宮野嘉子

2月のスタッフプラン
山の広場でみんなでキッチン

- ★18日(水) おべんとうの日
  ※おべんとうの準備をおねがいします。
- ★おむすびの日 6(金) 13(金) 20(金)
  ※おむすびおねがいします!!
- ★27日(金) 空べんとう箱の日 → 空のべんとう箱もってきてください!!
  ※自分でおむすび作ります!!

1月はこんなことしました

- 大野八幡宮 初もうで
- 七草がゆ作り（今年は五草がゆ♪）
- けいどろ
- 恐竜公園までさんぽ
- 鼓ヶ浦であそぶ
- エンと過ごす（1/21 逝く）
- 身長木を切る
- ビーむの浜（上関）
- 山たんけん
- 森でおうちさがし（ガリヨンよこ、黄色コース）
- あみのおうちさがし（城南公民館から歩く）
- はっさくもぎのお手伝い（上関）
- クサギのそめもの
- そばもちのおもちつき
- 氷室広にのぼる（柳井市伊陸）
- たこたかいごっこ
- 山の広場でソリすべり
- 雪さがしさんぽ
- おでん作り　etc…

2月のペアレンツグループ

16日(月) 13:00〜15:00

場所　もみじのいえ

内容「聴く」ことを学びあいましょう。

※参加する方は事前に連絡おねがいします。参加お待ちしてます！

_____の様子をおしらせします。

1週間くらい前からエンがずっと鳴いていたり、ころんだりして調子がわるく心配だった。寒い日がつづいて体にこたえていたかもしれない。

1/21 朝、いつものように「エンおはよー！あとから行くからねー」と、声だけはきいておうちえんに入った。思えば、「来て」って叫んでいたと思う。みなぎがエンをつなぎに行ってみると様子がおかしい。立てずにねそべったままの形になっている。覚悟しなきゃいけない時が来たんだと思った。エンは15才。ヤギの寿命は10年といわれている。

おうちえんがはじまったころからずっといたエン。おうちえんの子もてらこやの子もみんなやってきてエンを囲む。「ありがとうね。」「もうがんばらなくてもいいよ。」エンに伝える。私はモーニングミーティングで「エンのそばにいたい」と言った。そして何人かの子たちがしんとりとあそんでいる間、エンのそばにいてエンとおはなししてた。起きあがりたくて足をうごかしたり　もう意識（魂）がどっかにいってしまったようにみえたり、またカッコよい眼になったり、時々よぶと声を出してこたえてくれたりした。午前中ずっと一緒に居させてもらった。そこをはなれることができなかった。私は何もできなかった。みなぎやよしみさんやあっおさんがワラやシーツをはこんできてエンの下にしいた。あっおさんは(ゆずき)や(らほ)や(まゆ)と段ボールをはこんでエンのおうちの壁を補強したり、ワラをたっぷりしいてベッドをつくった。そして、きく、ふっくんと大きくて重いエンをそこに運んでくれた。エンよかったね。

私はずっとエンがいることが心の支えになっていた。他のスタッフのようにおせわできなかった（こわくて）けど、大好きだった。エンにかおをくっつけたりしてずっとスペシャルタイムさせてもらった。よしみさんはおさんぽに行き、みなぎは、けいどろをした。みんな気もそぐろだったはずだ。エンは私がいる間は生きていた。

「エン、いってくるね」午後、よしみさんと交替した。1時間後、エンは息をひきとった。私は山の中で電話を受けた。エンは私には看取らせてくれなかったなあと思った。

エンはみんなに愛されていた。

少しあたたかな日で、みんながいる中で逝ってよかった。ありがとう、エン。（1/21）

朝、山たんけん。(みつき)が泣きながら歩いてる。ついていこうとあせっている。ゆっくりのんびりでいいよーと声をかけながら、「のんびりいこう〜♪ のんびりいこう〜♪」と歌った私。午後山の広場にそりすべりに行く途中、(みつき)が「よっこのんびりいったらええんよね。」と言った。（1/8）

「おでん作りたい」と(けいご)からリクエストされていた。やろう!! 私がキッチンに入った。おでん材料は(けいご)(きょう)(なおと)。具材は、卵、こんぶ、厚あげ、こんにゃく、角天、ちくわ、大根。大根はよっこ畑のを抜いて使った。(けいご)が大根、こんにゃく厚あげ切り。(なおと)(きょう)がゆで卵のからむき、角天、ちくわ切り。トレイにめっちゃきれいに並べてある〜♡♡ 外に出てまずはカマド作りをする。そしてなべに具材を入れてこれに酒、しお、みりん、しょうゆを入れて味つける。ひたすらぐつぐつ。時々フタをあけては、中をみていた。私は、みそ汁と副菜（ほうれん草と人参のごま和え）を作りにキッチンに戻る。窓から見えるうんがしっかりやってる姿、たのしそうにしてる姿が見える。地面におえかきをしたりもしてる。できあがったおでんは、しみしみで上出来!! 私はつゆだけいただいた♪ おいしかったね！（1/7）

よっこのちょこっとおうちえん日誌〜日々のあれこれ〜